# 令和3年度 アクションプラン報告

◇アクションプラン1（うんと考える子・・知）

<table>
<tr><td>重点課題</td><td>◆ 活用・探究型授業の実施</td></tr>
<tr><td>具体目標<br>数値指数</td><td>・学期毎に端末を活用した問題解決的な学習や新聞を活用した学習を実施した学級の割合100%</td></tr>
<tr><td>今年度の<br>取組</td><td>・端末を活用した問題解決的な学習（調べる・まとめる・伝える）や新聞を活用した学習を計画的に実施する。</td></tr>
<tr><td>結 果</td><td>
<table>
<tr><td></td><td>実 施 率</td></tr>
<tr><td>1学期</td><td>70%（10学級のうち7学級で実施、3学級で実施予定）</td></tr>
<tr><td>2学期</td><td>100%（10学級全てで実施）</td></tr>
<tr><td>3学期</td><td>100%（10学級全てで実施）</td></tr>
</table>
※特別支援学級を含む<br>
・1学期は実施できなかった学級があったが、2・3学期は全学級で実施することができた。<br>
・どの学級も端末で複数回、問題解決的な学習に取り組むことができた。<br>
・実施した教科は国語科、社会科、算数科、理科、体育科、生活科、総合的な学習の時間、学級活動であり、多くの教科・領域等で実施することができた。
</td></tr>
<tr><td>最終評価<br><br>A</td><td>【問題解決的な学習について】<br>
〇端末を正しく活用するための情報モラルの学習やアプリの使い方の学習等に時間を確保して丁寧に指導することができた。<br>
〇子供同士で学び合う場面が増えた。（調べ活動、発表、意見交流等）<br>
〇友達に説明するときに自分の考えを端末からプロジェクターでホワイトボードに映し出し、視覚的に分かりやすく発表できるようになってきた。<br>
〇欠席、出席停止中の子供と、端末を使ってコミュニケーションを図ったり、オンライン授業を行ったりすることができた。<br>
△端末の使用の仕方で個人差・学級の差があり、ICT支援員やスタディ・メイト等の支援が必要である。次年度も互見授業等の研修を積み重ね、教師の指導力を向上させていく。<br>
【新聞を活用した学習について】<br>
〇低学年では、教師から新聞記事を継続的に紹介したことで、世の中の情勢や行事等、出来事を身近に感じ、自分事として捉えるきっかけとなった。<br>
〇高学年では、社会科（政治）や国語科（新聞の構成、文章の構成）で新聞を活用できた。新聞を学習に取り入れたことで、家庭でも新聞を読むきっかけとなった。<br>
△新聞を購読していない家庭もあり、一斉に宿題にすることができない。学習に活用できない学年は、朝の活動や帰りの会等、短い時間を見付けて新聞記事を紹介、解説していく。</td></tr>
<tr><td>外部評価</td><td>・欠席、出席停止で学校を休んでいる児童がオンラインで授業に参加できるのはよい。今後は休校等で、全校児童が一斉にオンライン授業を行った際に問題がないか検証していく必要があると思うので、対策を考えておいてほしい。<br>
・コロナ禍で、子供たちの話合い活動や発表の場面が減っていることが学び合いの充実の面からも心配である。今後は ICT 機器の性能（リモートによる交流、動画の録画・再生機能等）を有効に生かしながら、子供たちの表現力も身に付けさせてほしい。</td></tr>
</table>

◇アクションプラン2(なかよくする子・・徳　きれいなこころの子・・心)

| | |
|---|---|
| 重点課題 | ◆自他を尊重した挨拶や言葉遣いの場の設定 |
| 具体目標<br>数値指数 | ・宇奈月小学校の温かい言葉「あさがおさいた」(相手を認める場面)を広げる時間の毎日の実施率90%以上 |
| 今年度の取組 | ・「あさがおさいたタイム」を活用して、互いに認め合い、折り合いを付けながら生活をしていく関係を築く学校・学級づくりを行う。<br>・ねらいと目的を明確にした縦割り班活動を実施し、学年に応じた振り返り活動を行うことで異学年の友達と触れ合うよさを味わう。<br>・教育活動全体を通して道徳教育と関連付けて指導する。 |
| 結　果 | 教師へのアンケート「クラスでのあさがおさいたタイムの実施率」<br>(1年～6年：100%)<br>・全学年、毎日確実に取り組んでいる結果となった。<br>・実施時間は、どの学年も帰りの会の時間に組み込んで毎日行っている。学級活動の時間や行事等の時間にも、活動を振り返り、互いのよさを伝え合う時間を設けている学級もあった。<br>・「あさがおさいた」の取組を継続していくことで、互いのよいところを見付け、伝え合おうという意識が高まり、互いのよさやがんばりを認め合う言葉が自然と出るようになってきた。また、仲のよい友達や男女、学級・学年に関係なく、相手のよさや素敵な行動を伝えられる子供が増えた。 |
| 最終評価<br>A | ○昨年度に引き続き、「互いに認め合う時間を設定する」ことを重点に取り組んできた。取組を継続していくことで、帰りの会の「あさがおさいた」タイムだけでなく、授業でのペア活動やグループ活動等、日常生活の様々な場面で、互いのよさを見付けて伝え合う姿が増えてきた。また、些細な出来事でも、「よいこと、うれしいこと、友達のよさ」として自分で価値付ける心が育ってきた。<br>○児童会が呼びかけ、「あさがおさいたカード」を書く活動を取り入れた。「あさがおさいたカード」は、どの学年にとっても相手のよさに目を向ける動機付けとなり、自主的にカードを書く姿が見られた。発表に積極的でない子供もカードに書くことで、友達のよいところを伝えることができた。<br>○全校で人権集会を行い、言われてうれしい言葉(ほわほわ言葉)と言われて嫌な言葉(ちくちく言葉)について考えた。この集会をきっかけに、言葉遣いに対する意識が高まり、ほわほわ言葉を進んで使おうとする子供が増えた。<br>△より多くの子供たちが相手のよさを進んで発表するために、教師が率先してより多くの子供のよさを発表したり、ペアで互いのよさを伝え合ったりするなど、取組の方法に変化や幅をもたせ、誰もが発表できる環境への手立てを考えて継続していきたい。 |
| 外部評価 | ・子供同士が前向きな言葉を掛け合いながら生活することはとてもよい。これからも、「あさがおさいたタイム」を継続して実践し、子供同士で他者のよいところを「認める」「伝える」「広げる」を大切にして学校生活を過ごしてほしい。<br>・3件のいじめを認知しているとのことだが、今後も子供たちがいじめを伝えやすい環境をつくってほしい。またトラブルを認知したときは、早期に家庭連絡し、家庭と協力しながら解決に当たっている。 |

| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 支援級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1学期 | | | | | | | 80% |
| 2学期 | | | | | | | 100% |
| 3学期 | | | | | | | 100% |

◇アクションプラン3（つよいからだの子・・体）

<table>
<tr><td>重点課題</td><td>◆　ゲームやメディア利用の目標設定</td></tr>
<tr><td>具体目標<br>数値指数</td><td>・週に一度、教師がゲームやメディアとの付き合い方の目当てをもたせる実施率 90%以上</td></tr>
<tr><td>今年度の<br>取組</td><td>・学校保健委員会で専門家からの指導を受け、ゲームが心や体の健康に与える影響について理解する。<br>・毎週水曜日に子供が自分で取り組めそうな工夫や目当てをカードに書く。<br>・1か月を通して、メディアコントロールカードの目当ての実践がすべて「できた」であった子供の名前を給食時に放送で紹介する。</td></tr>
<tr><td>結　果</td><td>○メディアコントロールの目当てをもたせて帰すことができた割合は、カードの目当てを書く時間を確保し、カードの配り忘れ等がないよう放送で呼びかけたり、教師間で声をかけ合ったりすることで目標を達成することができた。<br>○メディアコントロールを意識して実践できた子供の割合が上昇した。（4月57%→1月68%）<br>（1月の4回、全て「できた」と答えた子供の割合）<br>・メディアコントロールの目当てをもたせる取組をした割合
<table>
<tr><td></td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>4年</td><td>5年</td><td>6年</td><td>全校</td></tr>
<tr><td>1学期</td><td>86%</td><td>91%</td><td>99%</td><td>82%</td><td>99%</td><td>95%</td><td>92%</td></tr>
<tr><td>2学期</td><td>99%</td><td>97%</td><td>98%</td><td>91%</td><td>98%</td><td>94%</td><td>96%</td></tr>
<tr><td>3学期</td><td>98%</td><td>95%</td><td>97%</td><td>95%</td><td>96%</td><td>95%</td><td>96%</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>最終評価<br><br>A</td><td>○学校保健委員会（すこやか集会）では、講師のゲーム障害に関するインパクトのある講話により、ゲーム依存症にならないように、また、ゲーム障害を予防しようとする意識が高まった。学校保健委員会の対象は3～6年生であったが、1、2年生にも保健委員会が作成したビデオを見せ、メディアコントロールへの意識を高めた。<br>○講師の話を基に、各クラスでメディアコントロールデーの合い言葉を決め、全校でメディアコントロールデーに取り組んだ。<br>○1月をメディアコントロール強調月間として、クラスで決めた合い言葉を基に実践したところ、メディアコントロールデーの目当てを守れた子供が毎週90%以上であった。今後は、さらにどうすればメディアとうまく付き合っていけるのか、学年に応じてメディア利用について考えさせる時間を設けて取り組んでいく。<br>○メディアコントロールカードの目当ての実践が全て「できた」人を給食時の放送で発表したのが効果的だった。また、その際、実践した感想や達成するためのアイディアを紹介することで、他の子供も目当てを達成しようとする意欲につながった。<br>○インターネット依存度テスト（IAT）を子供と保護者に実施し、個別に依存度を知らせることができた。また、学校保健委員会では、保健委員会の児童が IAT の集計結果を基に発表し、みんなで気を付けようとする意識を高めることができた。<br>○2月に IAT を再度実施し、9月からの変容を把握し、次年度の対策を考える。<br>△メディアコントロールデー以外の日には、長時間メディアの利用をしている子供がいるので、メディアコントロールの必要性について、発達の段階に合わせて指導していく必要がある。</td></tr>
<tr><td>外部評価</td><td>・児童、保護者の実態をアンケート調査で把握し、その上で対策を考えて学校と保護者が連携を図りながら実施していることで効果が見えてきた。今後は、メディアコントロールの目標設定の妥当性やメディアコントロールの具体的な方法を身に付けるための手立てを考えていくとよい。<br>・今年度、教師の達成目標は達成したが、次年度はどうするのか検討していくとよい。また、メディアコントロールの目標時間を子供自身が設定しているが、妥当なのか。学校、学級全体で「○分以上はしない」等、目標を統一して児童同士で声を掛け合いながら取り組むなど、次年度の方策を検討してほしい。</td></tr>
</table>